4 農村の暮らしに触れる

若狭たかはま ドコイコ! ナニショ! ミニツアー

白砂青松の「青の松原」は映画のロケ地にも盛んに使われた「日本 25 勝地」のひとつ。鎌倉時代から薗部の庄と呼ばれ脈々と受け継がれた農村文化、そして地蔵信仰の今をたどります。

所要時間
ゆっくり歩いて約 2 時間

4 農村の暮らしに触れる

白砂青松の「青の松原」は映画のロケ地にも盛んに使われた「日本 25 勝地」のひとつ。鎌倉時代から薗部の庄と呼ばれ脈々と受け継がれた農村文化、そして地蔵信仰の今をたどります。

❶ 民具館

民具館には、地域に残る農機具や生活道具が約270点あります。展示品は主に江戸から大正にかけて実際に使われていた道具ばかりで、江戸時代の唐箕(とうみ)や足踏み式の脱穀機などが目をひきます。また、猫が子を産むときに使う藁製の寝床(つご)や陶製の小さなコタツ、ランプといった生活用品も楽しめます。

❷ 御殿(松岡孫太夫邸)

徳川家の重臣である酒井家の別邸。若狭の国を治めていた酒井忠氏が、江戸幕府が倒れた後の晩年を過ごした別邸で、現在の高浜保育所辺りから移築したものです。

忠氏は、明治９年(1876年)に41歳でなくなりますが、常に倒幕派から命を狙われていたため、隠れ家生活を送ったこの別邸には、今でも屋根裏に隠し部屋が残されています。

庭の石灯籠は、江戸時代に薗部村に大火事が続いたことから建立され、今でも秋葉講が毎年行われています。

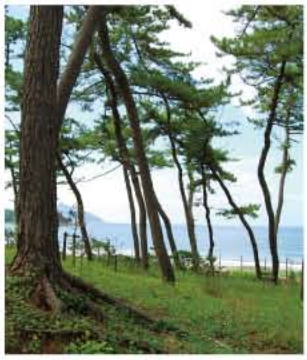
❸ 伊保地蔵

高さ約40cmの石をくり抜いて作られた地蔵尊で、「伊保地蔵」と呼ばれています。疣(いぼ)取りに御利益があるとされ、疣が取れたらお豆腐をお礼としてお供えし、それを誰かが食べてあげることが習わしとなっています。毎月23日に供養講が営まれます。

❹ 青の松原

高浜町は、城山岬を中心に東西８キロにわたり白砂青松の砂浜が続き、日本海随一の海水浴場として親しまれています。「雪浜」や「白浜」という地名もあり、白浜と青の松原の織りなす風景は、昭和３年「日本二十五勝地」に選ばれました。戦後の日本映画活況の時代には、映画のロケ地としてもよく使われていました。

【高浜での映画ロケ作品と出演者】
「お富さん」　勝新太郎、小町るみ子
「人肌蜘蛛」　田宮二郎、芦屋雁之助
「大菩薩峠」　市川雷蔵、近藤美恵子
「磯ぶし源太」　橋幸夫、弓恵子
「月をきる影ぼうし」　勝新太郎
「かげろうの家」　大原麗子、大和田伸也
「白蛇抄」　小柳ルミ子、若山富三郎



❺ 六体地蔵

江戸初期の建立と伝えられ、昭和54年秋に300年の供養法要が執り行われました。お地蔵さんは、地獄･餓鬼･畜生･修羅･仁･天といった六道すべてにおもむき救済されるとされ多くの信仰を集め、この辺りでも14軒を「地蔵町」と云い、一反あまりの供養田をもって、１年間の管理供養にあたる慣わしがあります。

❻ 正善寺

正善寺は、臨済宗相国寺派の禅寺です。位牌堂には、丈六阿弥陀如来の坐像が安置されており、平安から鎌倉期の作と云われています。境内には、町指定の天然記念物であるサルスベリがあり、毎年夏に紅色の花を咲かせています。また、境内にある道標は、230年以上前(1775年以前)にこの土地の農民によって刻まれたもので、元は西へ100mほど行った石塚という地籍に建っていました。「左巡礼道(ミち)」と刻まれ、京都からまっすぐ北へ向かい、ここ高浜にたどり着いた巡礼者は、ここから左に折れ松尾寺(西国二十九番札所)を目指したと思われます。松尾寺参拝を終えた巡礼者は、再び丹後街道を経由し、琵琶湖にある竹生島(西国三十番札所)を目指しました。

❼ 弁財天

弁財天の横には、町指定の天然記念物であるタモノキがあり、樹齢約400年と云われています。隣には古井戸があり、この辺りでは最も古い井戸とされています。その理由として、昔は現在のように垂直に井戸を掘り進む技術がないため、半径約３ｍのスペースをとって掘り進んでいきました。そう考えると、井戸の横に邪魔になるタモノキはなかったと推察でき、タモノキの生える400年以前に掘られた井戸であると考えられるからです。